

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006年 1月 31日

I 概要

実践団体・担当者名	宮城県 気仙沼市（月立小学校・階上中学校）（担当者：鈴木 秀光）	
連絡先	電話 0226-22-6600（内線221）	
プランタイトル	『みんなで取り組む防災対策』	
目的	子供達はもちろんのこと、学校を核として地域全体の防災意識の高揚を図る。 また、当事業を成果を活かし市全体での防災教育に役立てていく。	
プランの概略	<p>「月立小学校」：防災キャンプ 1泊2日の「防災キャンプ」を保護者、学校、市ほか関係機関が協力して実施 避難・消火・炊き出し・救護等の訓練 体育館での宿泊による避難所生活体験 防災講座、防災マップの作成など、楽しみながら防災について学ぶ。 また保護者や地域の方にも参加・見学いただくことで、地域全体での防災意識高揚を図る。</p> <p>「階上中学校」：年間を通じての防災教育 各種映像、資料の活用、過去の災害体験者の講話による地域の歴史的な災害の認識。 調査（現地調査、アンケート）実施による現状（ハザード・意識）の危険性の認識。 防災マップ作成による危険性の明確化と、「提言」による減災対策の必要性の認識。</p> <p>「気仙沼市」として「山間部の小学校」「海浜部の中学校」という2校での取り組みを研究し、紹介していくことで、これからの市内の防災教育に役立てていく。</p>	
プランの対象と参加人数	<p>「月立小学校」：全校児童（34名）、保護者、学校関係者、地域住民、行政関係者等 約150名</p> <p>「階上中学校」：全校生徒：158名</p>	
実施日時	<p>「月立小学校」：2005年7月30日～31日</p> <p>「階上中学校」：2005年5月～2006年1月</p>	
主な実施場所	<p>「月立小学校」：学校内（体育館、校庭）</p> <p>「階上中学校」：学校、階上地区</p>	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有
	連携した団体名	月立小学校PTA、月立小学校 階上中学校
	連携したきっかけ・理由	両校とも日頃から防災への意識が高く、様々な取り組みをなされていた。特に市内でも海岸部と山間部、小学校と中学校を対比させることで今後の他校の防災教育に活かせるのではないかと思い2校に相談を持ちかけた。
	連携団体へのアプローチ方法	チャレンジプランへの応募にあたり両校に出向き相談。 月立小PTAは知人であったことから会長、副会長に相談。
	連携団体との打合せ回数	4回程度
連携団体との役割分担	<p>物品・資料等の用意、広報関係：市役所 PTA関係者への相談・調整：月立小PTA 会場提供、児童への説明：月立小学校 授業時間の配分、内容検討：階上中学校</p>	

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2 名
	外部スタッフの総人数	3 名
	主なメンバーの 役職・役割	責 任 者：佐藤 健一（気仙沼市危機管理室長） 企画，渉外：吉田喜美夫，菅原正浩（月立小PTA） 企画，渉外：照井 唯史（階上中学校教諭） 企画，渉外，広報：鈴木秀光（気仙沼市危機管理室）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	月立小学校 2005年5月 ～ 2005年7月 階上中学校 2005年4月 ～ 2006年1月
	立案時間	およそ10時間
	上記のうち打合せ回数	5回程度
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<p>共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「防災・災害」について自分自身のことであると認識してもらう（事前資料の準備） ○ 地域住民からも協力（参加）してもらう ○ 一時的なものではなく、後にも残り、子供達にやりがいを感じてもらう ○ 油断されては困るが、あまりにも住んでいる地域を危険と認識しないように <p>月立小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の健康面，体力（休息，内容） ○ 関係機関（日赤，消防，東北大等）への協力依頼（内容） 	
プラン立案で 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容のレベル（学年が異なる：1～6年生） ○ タイムスケジュール（詰めすぎず，少なすぎず） ○ 児童向けの資料作成（地域特性，イラスト使用，キャンプまでの気運向上） 	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	7 名
	外部スタッフの総人数	40 名
	主なメンバーの 役職・役割	責 任 者：佐藤健一（気仙沼市危機管理室長） 指揮・進行：吉田喜美夫（月立小PTA会長） 会場準備：月立小保護者35名，教師5名，市職員5名ほか 事務，広報，資料作成：鈴木秀光（気仙沼市危機管理室）
準備に要した日 数・時間	準備期間	月立小学校：2005年6月1日～2005年7月30日
	準備総時間	およそ20時間
	上記の内打合せ回数	2時間×2回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	気仙沼市教育委員会 月立小学校
	どのように働きかけたか	構想段階からの情報提供・相談など
	結果	先生方にもご参加いただいた。

地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	月立地区 7自治会（町内会：約 300 世帯）
	どのように働きかけたか	地区の会長さんが集まる際に内容説明及び協力依頼 参観・参加・声かけについての依頼
	結果	防災キャンプ実施時に、多くの地区住民の方が参観、展示等 をご覧いただき、また防災マップ作成時にも過去の災害発生場所 などを子供達に教えていただいた。
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	月立小学校PTA
	どのように働きかけたか	当事業の構想段階から、実施について非常に意欲的であったこ とから相談を重ね、円滑に進行した。
	結果	主導的な立場を担っていただき、子供達だけではなく、必ず保 護者も1名泊まっていたくように呼びかけるなど、最初から 最後までお世話になった。
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	月立小学校 1. 湯沸かしパッケージ（湯沸かしセット） 2. 防災キャンプに向けての小学生用資料 3. DVD（災害映像）、プロジェクター 4. 液化化実験セット（水槽+砂+模型）
	入手先・入手方法	1. 購 入 2. 作 成 3. 市の備品 4. 作 成
	機材・教材選定の理由（な ぜこの機材・教材を選ん だのか）	1. 煮沸衛生対策、炊事 以後、山間部地域における備蓄物資として配備可能 2. 「ぼうさい」の教育と、キャンプに向けた意識高揚 3. 防災講座の関心を高めるためには映像と音声が有効 4. 関心を高め、わかりやすくするためには実験が有効
参加者の募集	募集方法	月立小学校 PTAとしての書面による募集
	募集期間	2005年 7月10日 ～ 7月20日
	参加予想人数	20名
	実際の参加人数	34名（全児童）
	募集方法の成功点	○地域特性：少人数ということで学校全体が家族的な雰囲気 ○「市役所」などのいわゆる他機関ではなく「PTA」からの 呼びかけであることも参加しやすい気運になったかと推測 される。
	募集方法の失敗点	
準備で苦労した 点・工夫した点	月立小学校 ○ 事前資料作成・配布によるわかりやすさと意識の高揚 ○ 防災講座時の「迫力」と「わかりやすさ」の設定 ○ 短時間（2時間程度）での防災マップ作成の進行	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月	【月立小学校】		
12月	・プラン構想		
2005 1月		・学校との相談	
2月		・学校、PTAへの採択の報告	
3月		・PTA役員会での報告	
4月			
5月			
6月		・起案（市主催としてのバックアップ体制）	
7月	・内容検討 ・関係機関との内容調整	・PTA役員会、全体会議での報告 ・関係機関への協力依頼 ・自治会長への案内、協力依頼 ・地区住民への周知（学校だより、市広報） ・マスコミへの情報提供による周知 ・資機材の用意	・児童へのミニ講座 ・事前資料の作成・配布 ・マップ用写真撮影（防災探検隊 実施） ・ 防災キャンプ 実施 ・防災マップ 作成
8月		・自治会長への報告と御礼 ・マップをデータでコピー（原本応募のため）	・学校、自治会に児童が作成した防災マップ（コピー版）を提供
9月			
10月			
11月			
12月			
2006 1月			・児童作成防災マップを印刷・配布（各地区）

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月	【階上中学校】		
12月	・プランの構想		
2005 1月		・学校との相談	
2月		・学校へのプラン採択の報告	
3月		・担当職員との打合せ (実施事例, 提供資料, 支援内容等説明)	
4月		・担当職員との打合せ (年間計画案と支援内容の調整)	
5月	・チリ津波体験者の講話準備	・講話者のセッティング, 打合せ ・講話用, 講座用のパワーポイント作成	・地震の体験話し合い ・インターネット等による調査 ・ <u>チリ津波体験者講話</u> (+防災講座)
6月	・防災マップ作成の打合せ	・資材の準備・提供 (色鉛筆, 都市計画図)	・作業用マップへの着色 (等高線の勉強) ・防災センター体験学習 (地震, 煙, ビデオ等)
7月			
8月			
9月			
10月		・資材の準備・提供 (カメラ, 現像) ・写真のデータ化・提供	・ <u>実地調査</u> (写真撮影+アンケート) ・アンケートまとめ ・防災マップの作成
11月			
12月		・マスコミへの情報提供による周知	・ <u>防災教育発表会</u> (保護者も参観) ・アンケート実施 (まとめ中)
2006 1月			・生徒作成防災マップを 印刷・配布 (各地区)

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	避難・消火訓練	応急手当・心肺蘇生法訓練	防災講座	地域の防災マップ作成
実施日	2005年7月30日	2005年7月30日	2005年7月30日	2005年7月31日
所要時間	45分	45分	45分	45分×3
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速・円滑な避難 ・(水)消火器の使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・けが等の初期手当 ・訓練用AEDの見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県沖地震について学ぶ ・災害について学ぶ ・防災対策への関心を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の危険な箇所を学ぶ ・地域の特色を学ぶ ・減災対策の意識を持つ
生成物				
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼消防署による指導 ・地震(机の下に避難) ・火災発生→校外へ避難 ・レスキュー救助体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字社宮城県支部の指導 ・三角巾の使用 ・気道確保の訓練 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターで災害映像 ・パワーポイントで紹介 ・液化化実験での関心高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の記載 ・写真の貼付 ・コメントの記入 ・特記事項の記入 ・全員で発表会
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・消防隊 ・はしご車 ・レスキュー車 (気仙沼消防署) 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角巾 ・訓練用人形 ・訓練用AED 等 (日赤宮城県支部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・講座用パワーポイント ・液化化実験器具 (気仙沼市危機管理室) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に撮影した写真 ・筆記用具類 ・作成を円滑にする例 (防災探検隊を活用)
場所	・校庭	・体育館	・体育館	・体育館

V実践の詳細 【C. 総合的な学習の時間】(継続的な学習を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	災害体験者の講話	作業用地図作成	実地調査	防災発表会
実施日	2005年5月16日	2005年6月20日	2005年10月13日	2005年12月6日
所要時間	45分	45分×2	45分×4	45分×2
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域に発生した過去の災害を学習する ・宮城県沖地震について学習する ・今後の学習を進める上での関心を持ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の地理的状況の学習 ・等高線についての学習 ・班としての結束 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の防災意識調査 ・地域の危険箇所の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作成マップ、調査結果の発表による危険箇所の情報共有化と自分たち自身の再認識
生成物		<ul style="list-style-type: none"> ・作業用地図 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民意識アンケート ・危険箇所調査写真 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒作成防災マップ ・防災3箇条
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識調査(手あげ) ・過去の地震災害の映像 ・津波の映像(刊、DVD、CD) ・災害体験者の講話(当時の状況+地震時対応) ※ 地元消防団員 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的について説明 ・等高線について説明 ・着色作業 ・予想津波浸水区域の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的、注意説明 ・各地区毎に調査実施 ・アンケートの実施 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実地調査の結果発表(地域の危険度、気づいた点、地域の人からの話等) ・「防災3箇条」の作成 ※ 参観日に合わせて実施
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・チリ地震津波の当時の映像、写真 ・説明用のパワーポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼市都市計画図 ・色鉛筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラ 	
場所	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室等 	<ul style="list-style-type: none"> ・階上地区 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室、多目的教室、美術室

VI実践後

参加者へのアンケート結果	<p>月立小学校：実施前後の父兄に調査（家庭と子供の意識）〔調査：東北大学〕 実施前：「防災について、あまり・めったに・まったく話し合わない」約5割 → 実施後：「今後、家庭で話しあいしようと思う」約9割</p> <p>階上中学校：住民の防災意識について〔調査：階上中学校生徒〕 市の防災マップを壁などに貼っている：2割 家具の転倒防止対策：5割が不十分</p>	
成果として得たこと	<p>月立小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプの実施により、児童もご父兄にも防災意識の高まりが見られた。 <p>階上中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への更なる働きかけが必要 ・地域内における防災課題の発見 ・児童の防災意識の高揚 	
成果物	<p>（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。 データがあればデータファイルを貼付して下さい。）</p>	
広報方法	広報した先	市内に本社、支局を有する各報道関係機関
	広報の方法	市役所記者室にて、各マスコミへの通知
	取材にきたマスコミ	・NHK、毎日放送、仙台放送、河北新報、三陸新報 など
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	・NHKニュース東北版、三陸新報 など
	成功点	・取材され、報道されたことも子供達のやりがいとなり、さらに意識も高まったようである
	失敗点	・市と学校を問い合わせ先としたが、学校への取材の問い合わせについては、ご負担に感じられた点もあったようである。
全体の感想と反省・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・元々防災意識の高い学校を選出し実施したということもあり、先生方も非常に協力的で円滑に事業自体を遂行することができたと感じている。 ・当方は「市」という立場であるが、やはり学校側、そして地域の協力のおかげで、ここまで無事行えたという感想である。 ・現時点の本市では、「防災教育」とはいえ防災部局がその大半を行っている。教育長からは非常に協力的な発言をいただいていることから、教育部局の職員の理解と協力を得られるように進めていく必要があると感じている。 	
今後の予定	来年度以降の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の予定としては、市から提供できる資料、映像実施できる防災講座の内容などを紹介し、また今年度の取り組みを端的に紹介し、他校が参考としやすいような資料を提供していきたい。
	是非実施してみたい取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校への防災資料の提供 ・支援内容の紹介 ・2月22日に市内中学校生徒会会議があり、防災講座の時間を設けている。早速、資料を提供して、生徒から「このような防災の取り組みをみんなでしてみたい」という思いがわき出るように進めてみたいと思っている。

自由記述

- ・最初は、もっと子供達の意見を採り入れた内容を実施できるかとも思っておりました。当初の題名としていた「みんなで取り組む防災対策 B-1！」とは、K-1のように子供達が班毎に『防災』『無事』『勉強』『ブロック』『ホー-ガ-ル』などBの頭文字を使用したアイデアを出し合いコンテストのように競い合うことを想定していたものです。
- ・子供達の意識高揚が、大人達へと広がっていくという感覚での構想でしたが、学習計画や安全面などもあることからこの点については、今後の課題と考えております。
- ・中の報告では省略しましたが、中学生には「立体地図」も作ってもらいました。こちらで板に線を引いて準備したものを切って張り合わせるだけでしたが、楽しんでもらえたようです。
- ・「防災」「教育」いずれもあまり子供達は敬遠しそうな「言葉の響き」のように感じます。「楽しさ」「達成感」「他者への貢献」これらを混在させることが、継続して行っていくための『キーワード』ではないかと感じています。
- ・現在、宮城県の土木事務所（地方機関）でも管内の学校への防災教育に積極的に取り組みを始められている。
- ・アンケートによると教職員の防災教育上の問題は教材の不足ということであった。
- ・市では「気仙沼市 地震・津波防災検討会議」という行政、関係機関、住民代表の会議の場を持ち、さらに6部会にて具体策の検討を進めている。
- ・その中の「防災教育検討部会」には教育長以下教育委員会、小中学校長会、高校関係者、自治会代表の方にも参加いただき検討を行っている場がある。
- ・今後、県とも連携を図り、協力して、よい教材、資料提供がなされるよう行って参りたいと考えています。
- ・1つの機関ができることには限りがございますが、「学校」「児童・生徒」「PTA」「地域のみなさん」「消防」「日赤」「教育委員会」「市」等様々な機関が連携し、協力をすることで1+1+1が5にも10にもなることを実感させていただきました。
- ・様々な防災対策の事項はございますけれども、これからも防災意識の広がりを学校を「核」とした地域に広めていく「防災教育」も本市の防災対策の主要メニューとして取り組んでまいります。

